

## 調査の概要

### 1 調査の目的

松原市では、全国、大阪府と同様に高齢化がすすんでいる。高齢者ができる限り、住み慣れた地域で必要な医療・介護サービスを受けつつ、安心して自分らしい生活を続けるには、在宅医療・介護の推進が不可欠である。在宅医療・介護の推進を図るには、市民の身近に存在し治療と生活を支える「かかりつけ医」の存在は重要である。

平成 21 年に大阪府医師会が実施した府民調査※では、20 歳以上の約 6 割の府民が「かかりつけ医」を決めており、このうち、8 割が「医院（診療所）」であることがわかった。一方、「かかりつけ医」の診療体制については、「24 時間来てもらえる」は 1 割には満たず、「往診は来てもらえるが 24 時間体制ではない」は 2 割台であることがわかった。

今回、下記の調査対象者に対して、「かかりつけ医に関する状況調査」を行うことにより、在宅医療・介護の推進を図るために、「かかりつけ医」を市民に啓発していく方策を考える一助とする。

### 2 調査の対象

- 1) 松原市薬局利用者
- 2) 松原市介護予防教室、老人クラブ介護予防教室、サロン等の参加者
- 3) 松原市役所窓口利用者（高齢者中心）

### 3 調査の期間

平成 25 年 12 月 6 日（金）～平成 26 年 1 月 31 日（金）

### 4 調査の方法

調査用紙を配布し自記入式及び聞き取り調査を行った。

### 5 調査の項目（別紙調査用紙参照）

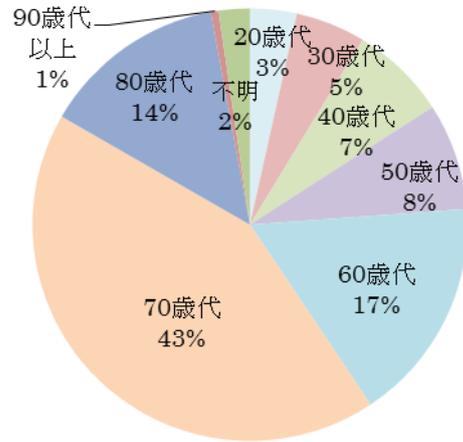
- 1) 「かかりつけ医」の有無について
- 2) 「かかりつけ医」の医療機関・診療科目について
- 3) 「かかりつけ医」への往診希望について
- 4) 「かかりつけ医」の往診体制について
- 5) 「かかりつけ医」の選択基準について
- 6) 「かかりつけ医」を決めない理由
- 7) 医療・病院の情報入手先について

6 調査結果の集計及び考察

1) 調査協力者の内訳について

薬局利用者 641 名と一般高齢者 223 名を合計した 864 名について集計を行った。また、性別は、男性 294 名(34%)、女性 543 名(63%)、不明 27 名(3%)であった。さらに、年齢別は、20 歳代 30 名(3%)、30 歳代 45 名(5%)、40 歳代 62 名(7%)、50 歳代 69 名(8%)、60 歳代 145 名(17%)、70 歳代 369 名(43%)、80 歳代 119 名(14%)、90 歳以上 5 名(1%)、不明 20 名(2%)であった。60 歳以上の調査協力者 638 名と、全体の 74%を占めた。

図1 回答者の年齢別人数の内訳

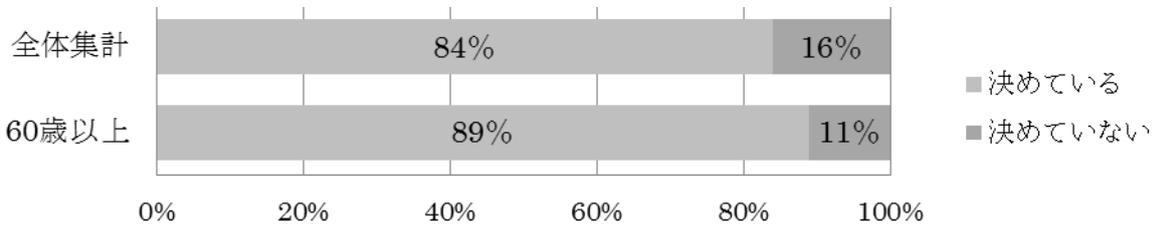


2) 「かかりつけ医」の有無について

(1) 「全体集計」と「60歳以上」との比較

「かかりつけ医」を決めていると回答した人は、全体で 84%であった。一方、60 歳以上の人は 89%であり、全体と比べると 5 ポイント高かった。

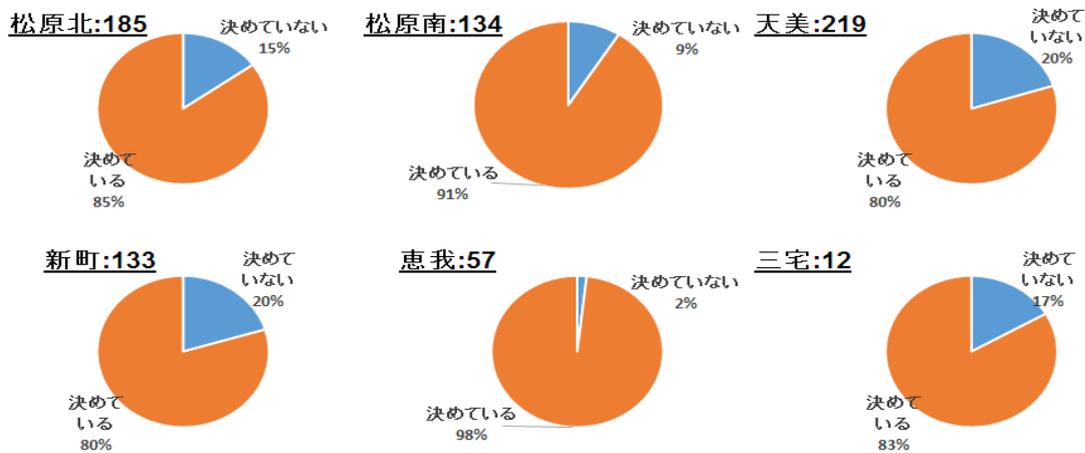
図2 全体と 60 歳以上との「かかりつけ医」の有無の比較



(2) 地区別比較

「かかりつけ医」を決めている割合が高かったのは、松原南地区 91%、恵我地区 98%であり、この 2 地区は病院の無い地区にあたる。

図3 地区別の「かかりつけ医」の有無の比較

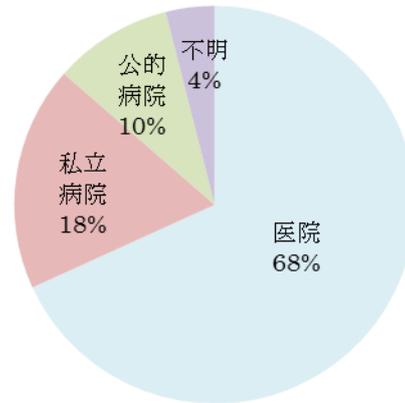


### 3) 「かかりつけ医」の医療機関・診療科目について

#### (1) 「かかりつけ医」の医療機関について

個人医院、診療所、クリニックなどの医院を「かかりつけ医」と回答した人は589名(68%)と多く、次に、私立病院158名(18%)、さらに、国、都道府県、市町村、日赤、済生会、その他の公的法人などの公的病院83名(10%)であった。

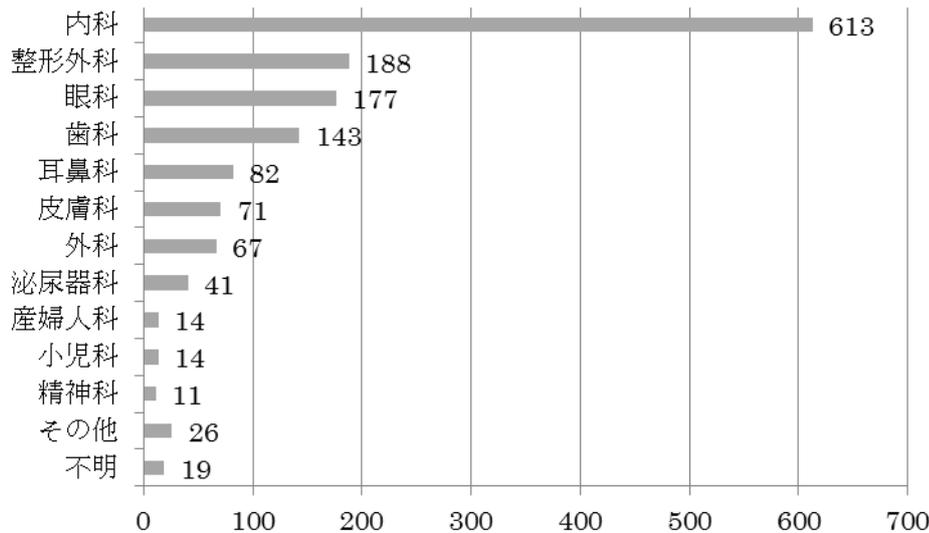
図4 「かかりつけ医」の医療機関について



#### (2) 「かかりつけ医」の診療科目について

内科を「かかりつけ医」と回答した人は613名と圧倒的に多く、次いで整形外科188名、歯科177名であった。

図5 「かかりつけ医」の診療科目について

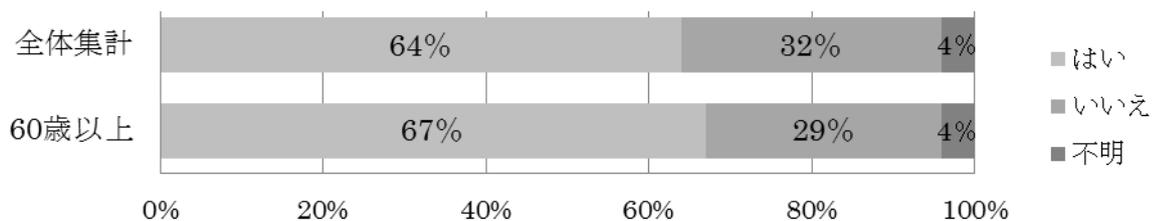


### 4) 「かかりつけ医」への往診希望について

#### (1) 「全体集計」と「60歳以上」との比較

必要になった時の「かかりつけ医」の往診を希望すると回答した人は、全体で64%であった。一方、60歳以上の人は67%であり、全体と比べると3ポイント高かった。

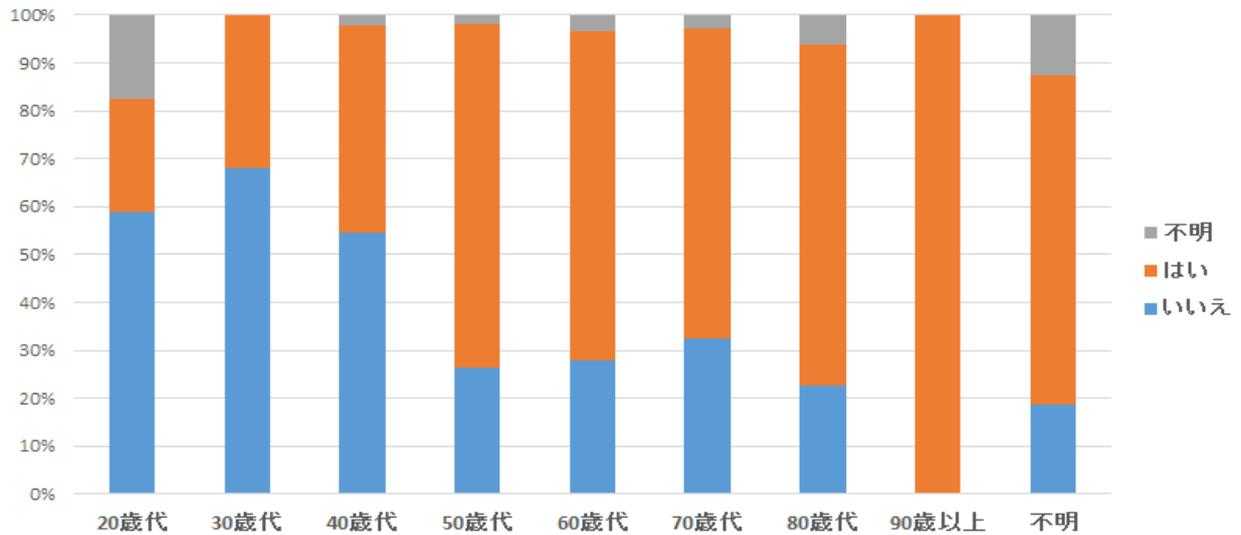
図6 「全体集計」と「60歳以上」との「かかりつけ医」への往診希望について



(2) 年齢別比較

50歳以上で約60%を超える方が、必要になった時の「かかりつけ医」の往診を希望していた。

図7 年齢別における「かかりつけ医」の往診希望の有無について

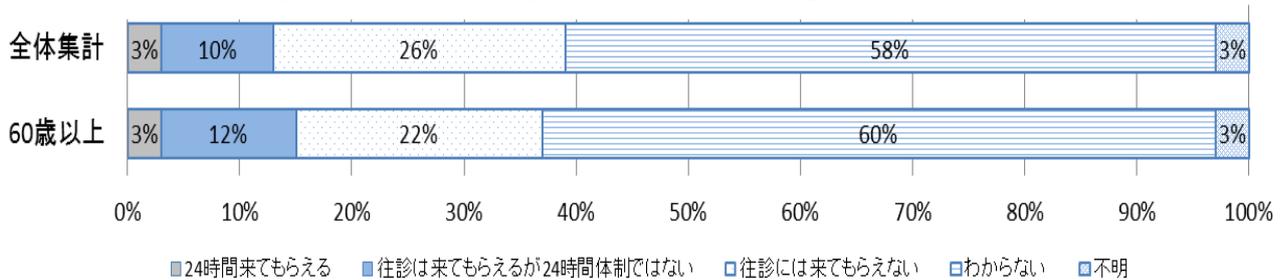


5) 「かかりつけ医」の往診体制について

(1) 「全体集計」と「60歳以上」との比較

「かかりつけ医」の往診体制は、全体では、「24時間来てもらえる」3%、「往診は来てもらえるが24時間体制ではない」10%、「往診には来てもらえない」26%、「わからない」58%であった。一方、60歳以上の人では、「24時間来てもらえる」3%、「往診は来てもらえるが24時間体制ではない」12%、「往診には来てもらえない」22%、「わからない」60%であった。

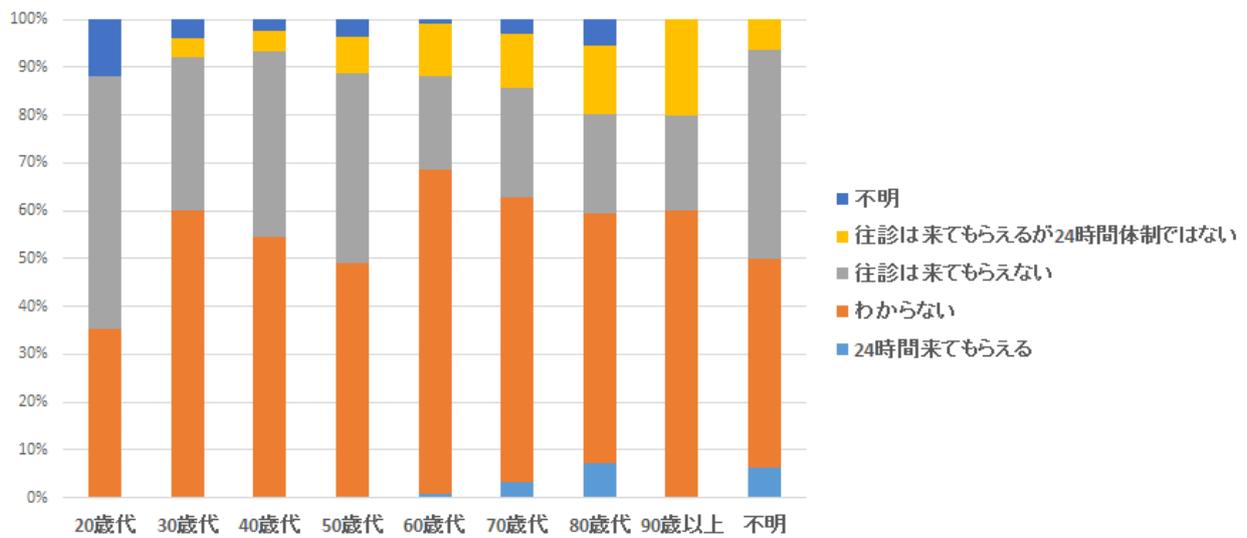
図8 「全体集計」と「60歳以上」との「かかりつけ医」の往診体制について



(2) 年齢別比較

年齢が増すごとに、「24時間来てもらえる」及び「往診は来てもらえるが24時間体制ではない」と回答した人の割合が増えていた。一方、30歳以上において、往診について「わからない」と回答した人の割合が半数を超えていた。

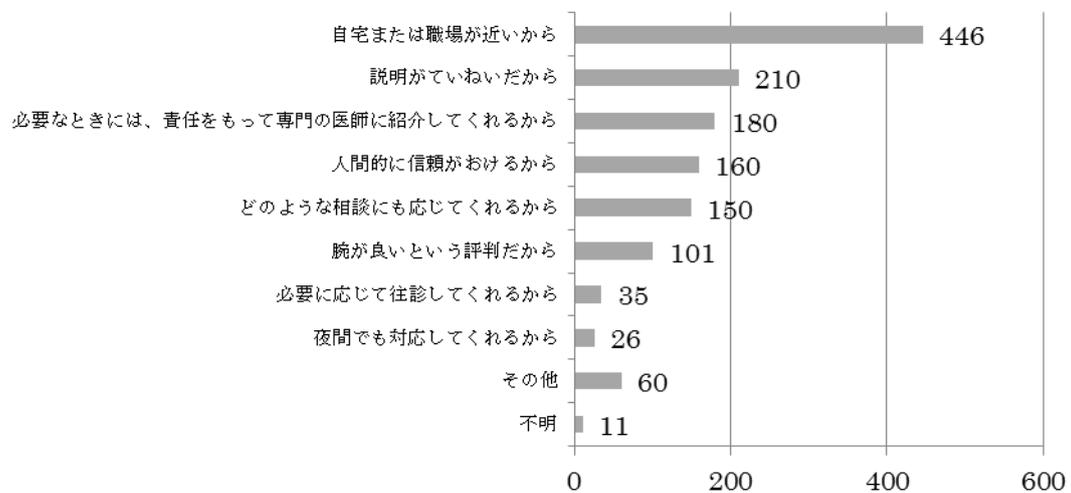
図9 年齢別における「かかりつけ医」の往診体制について



6) 「かかりつけ医」の選択基準について

「かかりつけ医」の選択基準については、「自宅または職場が近いから」446名が一番多く、次いで「説明がていねいだから」210名、「必要なときには、責任をもって専門の医師に紹介してくれるから」180名であった。一方、「必要に応じて往診してくれるから」は35名と少なかった。

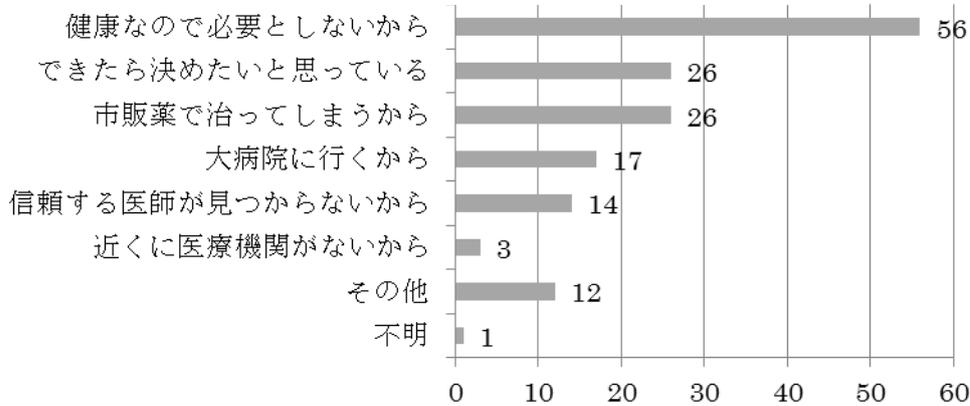
図10 「かかりつけ医」の選択基準について



## 7) 「かかりつけ医」を決めない理由

「かかりつけ医」を決めない理由については、「健康なので必要としないから」56名が一番多く、次いで、「できれば決めたいと思っている」26名、「市販薬で治ってしまうから」26名であった。

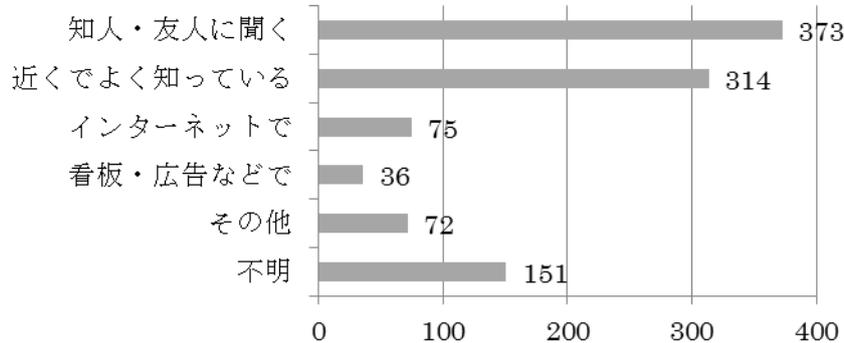
図 11 「かかりつけ医」を決めていない理由について



## 8) 医療・病院の情報入手先について

医療・病院の情報入手先については、「知人・友人に聞く」373名が一番多く、次いで「近くでよく知っている」314名、「インターネットで」75名、「看板・広告などで」36名であった。

図 12 医療・病院の情報入手先について



## 7 今後の課題について

### 1) 「かかりつけ医」の啓発について

「かかりつけ医」とは、「その人が住む地域の問題などで、日常的に体調管理や病気の診断などを行う医師」を意味する。本調査では、「かかりつけ医」を決めていると回答した人は8割と、平成21年大阪府医師会が実施した同様の府民調査の約6割と比較して多かった。しかし、調査員から、現在かかっている医院と病院を「かかりつけ医」として回答した人が多いという意見があり、「かかりつけ医」の定義が、医療・介護従事者と患者・利用者では相違があると推測した。また、「かかりつけ医」の選択基準については「自宅または職場が近いから」が多く、医療・病院の情報入手先については、「知人・友人に聞く」や「近くでよく知っている」の口コミによる情報が多いことにより、「かかりつけ医」を持つことのメリットについて地域等のつながりを活用し啓発していく必要がある。

## 2) 「かかりつけ医」の往診体制の整備について

本調査の結果では、必要になった時の「かかりつけ医」の往診を希望すると回答した人は6割であるにもかかわらず、「かかりつけ医」の往診体制については、「24時間来てもらえる」は1割に満たず、「往診は来てもらえるが24時間体制ではない」は1割程度であった。往診体制について「わからない」と回答した人は6割であった。しかし、平成21年大阪府医師会が実施した同様の府民調査では、「24時間来てもらえる」は本調査と同様に1割に満たなかったが、「往診は来てもらえるが24時間体制ではない」は2割程度と本調査と比べて多く、往診体制について「わからない」と回答した人は3割と本調査と比べてかなり少なかった。これらの結果より、医師に、往診の必要性の見込まれる疾患を持つ患者や高齢者と往診体制について普段の診療時から相談しておくよう働きかける必要があると考える。

### (参考文献)

※「大阪府医師会の府民調査～医療制度改革に対する大阪府民の意識と意見～」報告書，  
大阪府医師会，平成22年3月。